

会 議 録

会 議 名	平成29年度第3回小金井市史編さん委員会		
事 務 局	生涯学習課 文化財係		
開 催 日 時	平成30年2月5日(月)午後2時～3時		
開 催 場 所	小金井市役所第二庁舎801会議室		
出 席 委 員	根岸委員長 牛米委員 中嶋委員 日高委員 林委員 井上委員		
欠 席 委 員	上原委員 山本委員		
事 務 局 員	内田生涯学習課長 山崎文化財係長 高木主事(学芸員) 鈴木(市史編さん担当)非常勤嘱託職員		
傍 聴 の 可 否	可	傍 聴 者 数	無
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 平成29年度事業について</p> <p>ア 「小金井市史編纂資料第57編梶野家文書(2)」</p> <p>イ 古文書講座の開催について</p> <p>ウ 市史編さん資料調査委託について</p> <p>エ 考古資料写真撮影等委託について</p> <p>オ 郷土誌フェアについて</p> <p>(2) 部会の活動について</p> <p>ア 考古部会</p> <p>イ 近世部会</p> <p>ウ 近代部会</p> <p>エ 現代部会</p> <p>(3) 市民協力員について</p> <p>2 議 題</p> <p>(1) 今後の事業計画について</p> <p>ア 『通史編』について</p> <p>イ 『資料編 考古・中世』について</p> <p>3 次回及び平成30年度の会議日程</p> <p>平成30年度</p> <p>第1回 平成30年 5月14日(月)午後2時～</p> <p>第2回 平成30年10月29日(月)午後2時～</p> <p>第3回 平成31年 2月 4日(月)午後2時～</p> <p>於：市役所第二庁舎8階801会議室</p>		

#### 4 配付資料

- (1) 小金井市史編さん活動市民協力員調査項目一覧(資料1)
- (2) 『小金井市史 通史編』章立て(資料2)
- (3) 小金井市史 通史編(近代)の各章の概要(近代資料)
- (4) 小金井市史 通史編(現代)の各章の概要(現代資料)
- (5) 第30回多摩郷土誌フェアについて
- (6) 月刊こうみんかん 11、12、1、2月号
- (7) 平成29年度古文書講座「史料に探る中世の小金井」チラシ

## 会 議 結 果

内田生涯学習課長 本日の市史編さん委員会ですが、明日の庁舎特別委員会の関連業務で、副市長が本日は欠席させていただいております。それからインフルエンザで、教育長も欠席させていただいているような次第です。申し訳ございません。

今年に入って、60周年事業に位置づけられております市史編さん業務も仕上げにかかっていたり時期になりますので、どうぞよろしくお願いたします。

根岸委員長 それではよろしくお願いたします。第3回本日の編さん委員会になりますが、まず報告としまして、(1)29年度事業についてから、順番にお願いできればと思います。

### 1 報告事項

#### (1) 平成29年度事業について

##### ア 「小金井市史編纂資料第57編梶野家文書(2)」

高木主事(学芸員) まず、アの小金井市史編さん資料第57編、梶野家文書(2)の発行についてです。こちらの梶野家文書は、現在の梶野町に所在しました梶野新田のさらにそちらの開拓をされた梶野家、旧家ですけれども、こちらが所蔵している文書群をこれから翻刻して、出版していく関係ですが、長年根岸委員長に、その業務を報告してきたものの一部を今年事務局で編集し、原本を構成いたしました。既に印刷業者とは契約をして、今年度の完成本を予定しております。昨年度は第1巻で、それに続いての第2巻という形になります。まずこれが梶野家文書についてでございます。

##### イ 古文書講座の開催について

高木主事(学芸員) 続きまして、イの古文書講座の開催につきまして、毎年やはりこちらも市民の方に、その古文書に親しんでもらう機会を設けるために、古文書講座というのを開催しております。毎回3回講座を行っておりまして、今年はず2月24日に第1回目を行いまして、翌週の3月3日、最終回が3月10日、3週連続の講座となります。

このたび講師を、現在考古部会の調査を担当されております東京学芸大学の准教授の下村先生をお願いしております。タイトルは「史料に探る中世の小金井」と題しまして、江戸時代よりもさらに古い中世と言われる鎌倉時代から戦国時代の文書を題材としまして、まずは中世文書の基礎知識をご説明いただいた上で、時代背景もあわせて解説していただくこととなります。あいにく小金井には中世文書は残されておられませんので、周辺地域の古文書からお話ししていただいた上で、小金井を探っていただく内容となります。

ここ何年かは江戸時代、近世の古文書を主体に行ってきましたが、少しこういう形で、調査が進む中世をまず1回題材としたという目的がございます。

#### ウ 市史編さん資料調査委託について

高木主事(学芸員) ウの市史編さん資料、こちらは黒曜石の原産地分析という目的で、東京学芸大学との共同研究という形で行っている業務委託です。失礼しました。ウの市史編さん資料調査委託というのが黒曜石の分析です。こちらは、現在東京学芸大学、専門機関において、既にその資料をお渡しした上で、鋭意分析が進められているとのことです。

こちらの黒曜石の分析結果については、やはり資料編、考古・中世の中における附編に掲載される予定となっております。

#### エ 考古資料写真撮影等委託について

高木主事(学芸員) 考古資料写真撮影等委託について。こちらの委託事業も、考古部会に伴う作業を専門業者に委託しておりました。内容といたしましては、発掘資料の写真撮影委託です。こちらは12月には業務が完了いたしまして、その撮影されたデータは、今後資料編、考古・中世及び通史編に掲載されることとなります。撮影内容は主に旧石器時代、縄文時代、またほかの時代も一部取り扱っております。

#### オ 郷土誌フェアについて

高木主事(学芸員) 続いて、多摩郷土誌フェアの開催結果もあわせてご報告を簡単にさせていただきます。

山崎文化財係長 第30回多摩郷土誌フェアについてです。毎年こちらには小金井市も参加しておりますので、報告させていただきます。こちらは東京都市社会教育課長会文化財部会の主催で、毎年実施しております。多摩地区の教育委員会等が発行している郷土史関係の出版物を一堂に集めて、それを展示することにより、多くの人々に紹介し、希望者には有料頒布するというので、普及を図ることを目的にしております。

今年度は、1月20日、21日の2日間、立川市の女性総合センターアイムの1階、センターギャラリーで実施いたしました。参加自治体は24市1町でございます。昨年度と異なった点は、開催場所が健康プラザという例年行っている場所から、センターギャラリーというオープンスペースに変更になった点です。

2階に図書館がございまして、週末来館された方に声をかけたこととか、室内での開催よりも通行人が立ち寄りやすかったということもありまして、昨年度の来場者数463名に対し、今年度は653人と増加しました。

販売実績も昨年度は33冊8,900円だったのですが、今年度は35冊、1万7,600円という結果でした。

来場者は、多摩地区の歴史関係を調べていらっしゃる方や、興味のある方がほとんどですが、旧浴恩館に青年団活動で通ったというご高齢の方が『青年団と浴恩館』の改訂版を買っていかれたのが印象的でした。

報告は以上です。

高木主事(学芸員) その他でもう一件、今お話の中にありました、新しく改訂しました『青年団と浴恩館』、青い冊子をお配りしていますが、こちらを11月に新たに一部改訂しまして、今販売しております。あわせてこちらを皆様にお渡しして報告とさせていただきます。

報告は以上です。

根岸委員長 ありがとうございます。質問、ご意見は順番にお願いしたいと思いますが、アについて何かご意見、ご質問ございますか。よろしいでしょうか。

イの古文書講座について、いかがでしょうか。よろしいですか。

ウとエにつきまして、日高先生のほうから何かあれば、少しご説明いただけますか。

日高委員 いや、特に今、高木さんに説明していただいたとおりですので。部会の活動についてもかかわることではありますので、その部分については後ほど。

根岸委員長 わかりました。ウとエ、郷土誌フェアについて何かご質問よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

## (2) 部会の活動について

### ア 考古部会

根岸委員長 それでは(2)部会の活動について、今執筆に入っているところが多くて、なかなか把握できないところもあるかと思えますけれども、順に行いたいと思います。

まず各部会についてで、考古部会からお願いいたします。

日高委員 直近ですと12月に1回考古部会として調査委員が全員集まって、進捗状況の確認等を行いました。それで特に先ほどもありましたけれども、考古資料の写真撮影などが終了したということにして、文化財センターのもの、それからたてもの園にあるもの、そういうものの写真撮影も終了して、それを市史のほうに生かしていくという形になります。

それから、それぞれの調査員、担当者のほうで、旧石器から縄文、弥生、古墳、古代、中世というところで、進捗状況が報告されてということになりますけれども、今まで図面等が出されていなかったものについて、今回旧石器のほうの担当をしていただいている野口さんという調査員の方がおられるのですが、3次元計測などを積極的に行っている方でありまして、板碑とかそういうものを3Dという形でデータ化をすることが、今後有効なんじゃないかということもありまして、文化財センターのほうで持っている板碑と、それから出土地不詳で、たてもの園には保管されているということで、小金井市出土のものかどうかというのは全くわからないんですが、こういう機会にやらないと、そういうものは世に出ないだろうということもありまして、小金井市内にある資料ということで、そういう3次元計測というのも行っております。

それから、大きな常滑のつぼがあったのですが、前々から写真等は出

ていたんですが、その3次元計測というのも行っていただきまして、それを図面で2次元にしてという形で、それも市史に反映していきたいということで、その図面も私も見せていただきました。今までにない試みかと思っております。

それから、黒曜石の分析については、今鋭意進めているということがあります。旧石器と、それから今年度縄文ということで、もう少しやるのですかね。

高木主事(学芸員) まず縄文から始めています。

日高委員 縄文からというか、この間、渡したものの以外にも、縄文の遺跡は出てきませんか。

高木主事(学芸員) ひとまず以上です。

日高委員 以上ですか。数が少ないという気はするので、もし探せるのであれば、もう少しやってもらったほうがいいとは思いますが。

高木主事(学芸員) そうですね。

日高委員 進めているということにして、旧石器のほうのデータも大分整理が進んできて、おもしろいデータが出てきているということです。この多摩地区のほうでの旧石器の黒曜石の産地分析という結果からすると、今までにない傾向が出ているということなので、新たな研究成果が盛り込めるだろうと思っております。

締め切りが近づいてまいりましたので、各調査員で鋭意原稿のほうを進めていくということで、私自身も早くやらなきゃいけないと思っております。

資料3-1というところに、今までと同様ですけれども、章立てを載せてあります。特段大きな変更というのはありません。どうでしょうか、第二章については、高木さん、何か説明されますか。

高木主事(学芸員) ちょっとまだ今説明できる場所がないので。

日高委員 そうですか。こういう形での章立てを進めてまいりたいということですか。

考古部会のほうからは以上です。

根岸委員長 ありがとうございます。これにつきまして何かご質問、ご意見いかがでしょうか。

中嶋委員 それでは、質問だけですけれども、小金井市の資料編の第二章の今言われたところですが、「小金井の発掘調査のあゆみ」というところがありますけれども、ちょうど通史編の現代編でも扱うかもしれないところなので、どんなふうにまとめられるのか。第四小学校ですか、結構反対運動なんかもあるわけですが、そういうことも挙げられるのかと。

高木主事(学芸員) 縄文時代の担当者であったり、旧石器時代の担当者が、ちょっとコメントも含めてご説明すると、まさに中嶋委員がおっしゃったように、貫井遺跡でのそういう保存運動というのが一つ挙げられます。資料編なので、ひとまずそういうところは触れておきたいというお話を今いただいております。

それを今回第二章という形で取り上げるか、今保留にしております

が、その時代ごとでどういう調査がされているかという観点のもと、そういう運動であったり、遺跡に対する考え方というのは盛り込む形となると思いますので、現代編の中で通史編、目次立ての中に入っておりますので、まずはおそらくこの考古・中世編の中で、大部分は紹介できればという考えは一応持っているようです。

中嶋委員 私のところ、現代編でも扱うかもしれないのですが、それでは簡単に扱う形ということですね。わかりました。

根岸委員長 よろしいですか。

中嶋委員 はい。

根岸委員長 ほかはいかがでしょうか。

写真撮影したデータは、全部市史に載せられるのですか。

日高委員 高木さんから説明しますか。

高木主事(学芸員)

原則は撮ったデータは可能な限り載せます。ただ、紙で刷るものと、付録としてつけるCD-ROM。CD-ROMにはもう全て載せるという方針のもと、またちょっと載せ方は今後の検討ですけれども、なるべく多くの資料を載せたほうが良いということで、考古・中世編は進めております。

根岸委員長 ありがとうございます。

日高委員 膨大な量になりますので。紙といいますか、印刷物の市史の資料編のほうに載せられるものについては載せていくと。ただやはり判の大きさは大きい判でということを進めることにはなっているわけなのですが、それでもやはり限界があったり、写真自体は非常に高精細な形での画像、デジタルデータという形で撮っていますので、それを市史を見ただいた方に活用していただくというような観点からも、DVDになるのかCDになるのか、そういうものを付録としてつけよう。その中では全てを出してということですよ。

根岸委員長 ありがとうございます。

中嶋委員 質問ですが、知らなかったのですが、そのDVDかCD-ROMをつけるということになっていたのですか。

日高委員 前に多分報告があって、金額的には大きく増えるわけではないということも、見積もりでいただいていることもありますので、そういうものをつけて出版したいということですよ。

中嶋委員 知りませんでした。

根岸委員長 そうすると、通史でも何かできるかもしれません。例えば年表CDをデータ化すると、後々ほかの人も使ってもらえたりします。ただ著作権の問題もあり、いろいろ問題はあるかと思っておりますので。検討課題になるかもしれないですね。

中嶋委員 民俗行事なども。CDでご紹介できると分かりやすいですね。

根岸委員長 映像とかですね。

中嶋委員 映像です。

日高委員 そういう可能性は確かにありますよね。

根岸委員長 そうですね。

日高委員　　なかなか今お祭りなども、例えばおみこしの担ぎ手がいなくなっている状況もあって、そういうものを記録として残していかないとというのが、どこの自治体でもそうですけど。

根岸委員長　　今後の課題として、記録にとどめておきたいと思います。ほかはいかがでしょうか。考古についてはよろしいでしょうか。

#### イ 近世部会

根岸委員長　　近世につきまして、ほかの先生方はきちんとレジュメを出されているのに、私だけ出していなくて申し訳ないのですが、基本的に資料編をつくったときと同じ構想で考えております。資料編のとき何度も申し上げたことですが、資料2-2の近世の部分では、一章が16世紀の終わりから17世紀ぐらいにかけて、野川沿いにできた村々がだんだんと台地に進出する過程。第二章は18世紀前半の享保改革を中心とした台地の開発と、その中で村が次第に成熟していくような過程。三章は18世紀から19世紀にかけての村の景観と仕組み。四章は同時期での生業、産業、経済、あるいは災害に対する対応。五章は、18世紀末から19世紀に周辺の地域や江戸などと次第に結びつきながら、地域の認識を広げていき、政治的な動きが活発になる過程。六章は19世紀を中心とした村の人々の一生や村の生活。七章も同時期の村の信仰や寺社のあり方、さらに文化の問題。第八章は教育、入木道といわれた書道、和算、俳諧などが盛んになり、文芸などを通じて周辺の地域と結びついていく過程。さらに天然理心流を中心とした幕末の武芸。これも周辺の地域と結びつきながら、次第に政治運動への参加など。九章は幕末の情勢の中で、小金井が近代へ向かっていく過程。それが外からの圧力で近代に向かっていくのではなく、中の力で近代を受容するだけの実力を持っていくような過程。以上のような内容を書こうとしております。それぞれ今各執筆者が書いているところで、多少おくれなどもあって、懸念も多少ありますが、何とかまとめ上げていこうと思っております。

近世については口頭で申し訳ありませんが、そんなところです。何かご質問、ご意見いかがでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

#### ウ 近代部会

根岸委員長　　続きまして、近代部会、お願いいたします。

牛米委員　　それでは私から。近代部会での資料は後半の部分ですが、近代資料1から4まで、一応各章の概要をまとめました。前回の編さん委員会の後、12月に近代部会を開催しました。そのときにそれぞれ担当者から400字程度で、概要を出してもらいまして、それをまとめたものです。近代の場合は、それぞれの章を複数の執筆者で分野別に担当しております。その辺が近世や現代のように各章を1人で担当するのとは違ってきます。

章立てとその項目は以前にもお示ししましたが、今回は、これを具体



的な文章にしたものとして、目を通していただければと思います。

ただこの中で、例えば明治維新のときの神仏分離令に伴う地域の改編や小金井の桜について、こちらは担当者が本務校の仕事の関係で原稿が間に合いませんでしたので抜けておりますが、章立てにあるように通史編の中には入っていきますので、そこだけ補足しておきたいと思えます。

それから、これは読んでいただけるとわかるのですが、一章、二章、三章で、三章が大正から昭和12年の町制の施行まで、かなり長い時期を扱っています。この辺分割できないかという話もあったのですが、実はこれは資料上の問題でやりにくいということで、大正を昭和とくっつけています。その関係で、第三章のほうで大正、昭和を扱っている部分と、それから第二章のところに大正を入れているのと、それは分野というか、資料の関係で、不整合なところがあるのですが、とりあえずやりやすいやり方で書くようお願いしてあります。

それで原稿が出てくると思えますので、どうも読んでいて大正が前に出てきてまた戻るとか、全体を通して見たときに分かりにくいのであれば、その項目を改めて編集するというように考えたいと思えます。とりあえず今は、書きやすい形で、とにかく原稿を書きすすめましょうということで、お願いしております。

簡単ですが、こんな状況でございます。

根岸委員長

ありがとうございます。ご意見、ご質問について長い文章なので、今読んですぐには無理と思えますが、何か気がつかれたことがあればいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

1つ気になったのが、第一章の最初の1行目で、「徳川幕府」という言葉、別にいいのですが、教科書的には「江戸幕府」とあり、近世はそうしています。

牛米委員

では、そうしましょう。別にこだわりがあって書いたわけではありませぬので。

根岸委員長

歴史的用語は各時代で少し出てきたところを統一するようになればと思えます。

牛米委員

そうですね。それは統一していただければと思えます。

根岸委員長

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。もし読んでいて何かあったらまた後にご指摘いただければと思えます。

## エ 現代部会

根岸委員長

では、次に現代部会、お願いいたします。

中嶋委員

現代部会のほうは、現在、1月か2月に1回ずつ部会を開いて、原稿の調整というか、原稿を少しずつでも書いて報告するような形で進めております。

通史編の現代の第一部、これは各担当者の原稿の最初の部分、冒頭の部分だけを抜き出しています。第一章と第二章は同じ担当者がやっていますので、第一章のほうは書いたが、第二章はまだ進んでいないという

ことです。

内容については、現在、目次項目を見ていただければと思います。ただ、節、項ぐらいまでは多分変更が無いかと思いますが、中のほうの小見出しや目次については、書いてみると変わってくるものもあります。ですから、中身は大体このようなものを書くという感じで見ていただきたいと思います。

部会で話し合ったことですが、第一章、第三章、第四章、第五章というのは、冒頭のところで説明していて、各章の中身を、何を扱ったかを簡単に説明しているような感じの文章になっています。現代編全体では何を扱っているか、どの時代では何を扱っているかとか、例えばここに書いてあるものの何を論点にするかとか、そういうものをどこかで設けられないでしょうか。

現代編の冒頭のところに章とは別個に、現代編の時代区分とか、特に時代区分は重要なので、それも一応説明するか、それとも冒頭に序章をつくるという話でしたので、そちらのほうで書くのかわかりませんが。

多分編集全体にかかわるので、何かあったほうがいいのかと思います。

近世編もある種構成全体に特徴があると思いますし、近代編もそうです。各編の特徴を出す文章を、現代編としては何か最初に設けたほうがいいだろうと考えています。

ただ、現代編でなく全体でも各編の説明をしたほうがいいのかもかもしれませんので、それについて今後ご協議をお願いしたいです。

それから、中身は見ていただければわかるのですが、それぞれの人が違うので、これは書き方がまちまちです。冒頭の部分といっても、例えば小見出しもありますし、第一章の感じは何か論文の書き方みたいな感じなので、全体について、表現をどうするかということは、中身を書いてから、統一するよう考えるつもりです。

根岸委員長

ありがとうございます。小見出しも前に編集委員会で話したように、見開きで1つか2つの小見出しという程度の分量を考えながら、多少整理していただければ問題ないと思っています。ここでは、内容が分かればいいと思っておりますが、いかがでしょうか。

中嶋委員

各編で冒頭をどう書くか、小見出しにするのか、については。

根岸委員長

どうでしょうか。例えば各編で表紙がありますよね。表紙の裏に。裏だと1ページですから、せいぜい書いて800字ぐらいですよね。そこにも各編の特徴は書けますかね。

中嶋委員

書けると思います。

根岸委員長

あればあったでわかりやすいかなと。何か囲みでもしてとか。

中嶋委員

どういうふうに編集していくかですかね。

根岸委員長

そうですね。

林委員

何かそういうまとめがあればあったで見やすいかもしれないですね。

私もそう思います。一般的に、市史に関心を持っている人は別かもしれないですが、そうでない人が見た場合に、見てすぐ内容がある程度分かると良いと思います。

根岸委員長　　そうですね。全部を補完して書けないと思うのですが、どんな特徴を考えているのかとか、小金井のこの時代にどんな特徴があるのか、それを考えながら章立てをつくったというような、そんなことしか書けないと思うのですが。

中嶋委員　　1つは歴史区分の問題がある。

根岸委員長　　そうですね。

中嶋委員　　あとは、何が一番中心になるかということは、やはり戦争と平和の問題、あとは都市化の問題、新しい社会、現代につながる問題、その3点ぐらいだと思います。中身を見ないと書けないところもある。ただ800字ぐらいで書いたほうがいいのかと。各章の冒頭というのは、時代の全体の概観は書いたほうがいいのかと思います。特徴は別にしたほうがいいのかと。

根岸委員長　　そうですね。近世もやはり開発の進展で景観が大きく変わっていきながら、そこに村の人たちが成熟して、その中で近代を受け入れるだけの実力を持ってきたと、そんな話になったり、景観が変わることが後の近代、現代の都市化の前提になっていくというような、そんな話を書くと、それぞれうまくお互いの連携も出てくるかもしれないですね。

日高委員　　資料2-1の通史編の章立ての一番最初のところ、左側に巻頭があって序文があって、通史導入部というのがあります。例えばこういうところに、Ⅰ、原始、古代、中世から、Ⅱ、近世、近代、現代という今おっしゃったものを、冒頭に持ってくるというのも、考え方としてはあるかなと。

根岸委員長　　ある程度そこも書き込まなければいけないと思うのですが、今考えている通史の導入部は、小金井再開発地区の遺跡の発掘を具体例にできればと思います。

遺跡を掘っていくと現代の遺物や遺構があり、その下に近代がさらに近世があり、その下には中世はあまりないけれども縄文が見えてくる。

日高委員　　さかのぼっていくような形でと、前おっしゃっていた。

根岸委員長　　さかのぼって。だから土地にそういうものが刻まれているというところから始めたらどうでしょうという話を、何回か前にしたかと思うのです。そういう導入部を基本的には考えていたのです。

日高委員　　いや、要するに、この通史編をごらんになる一般の方は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳとあるわけですが、それぞれのⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの冒頭に概要というか、原始から中世までについては小金井に関してはこうですよというのが、仮に書いていなくても、興味がある人は多分読むと思います。

今議論になっているのは、そういう興味があつてという人ではない人にも手にとってもらうには、むしろ別立ての最初のところのほうが、取っかかりとしてはいいのかなとも思ったりしたんです。どちらがいいのかわかりませんが。

根岸委員長　　私の感覚ですと、一般の人とは違うかもしれないですが、あまり初めから読むことはなく、自分の使うところしか見ません。学生にも本を見たら、奥書を最初に読んでから序文を読めとよく言います。全部を初め

から読むという人はわりと少ないと思います。

林 委 員 それは極めて希有な存在ですね。やはり興味のあるところから読んでいくようになる。

根岸委員長 だからある程度興味のある前にそこを書いておいたほうが、それはそれで。

日 高 委 員 そうですかね。どちらがいいのか何ともというのはありますけどね。

根岸委員長 ただその導入部はそのような遺跡の発掘を通して、土地に歴史が刻まれている、その土地が今再開発でこう変わろうとしていることを示しながら、歴史に対する興味や地域に対する思いを持っていただくような、そんな導入部にできたらと思っています。

日 高 委 員 わかりました。そういうことでしたら、それぞれのところの一番最初にというのでもよろしいかと思えます。

根岸委員長 いかがでしょうか、先生方。牛込先生。

牛 米 委 員 基本的に近代というのはどこからどこまでを扱っていて、それがこういう形で三章になっているとか、それぞれこういう時代区分になっていると、そんなようなことを書けばいいという感じですよ。

根岸委員長 そうですね。

牛 米 委 員 わかりました。

根岸委員長 そこにちょっとトピックをといるのか。

800字で。また仕事が増えてしまいましたけれども。

日 高 委 員 こういうところに注目してほしいとか、そういうようなことですよ。

根岸委員長 そうですね。これについてはそういうことで、仕事を増やしてしまいましたけれども、800字程度で扉の裏にそういうものを載せるという形でよろしいでしょうか。

本文と異なるように、囲みではきついから、何か工夫が必要かもしれませんね。ほかにそのような市町村史は見たことがないので、なるべくほかにないようなことをやって、ちょっと挑戦してみるのもよいのではないかと思っております。

では、各部会については以上でよろしいでしょうか。

### (3) 市民協力員について

根岸委員長 では、続きまして、(3) の市民協力員についてご説明をお願いします。

高木主事(学芸員) 資料1をご覧ください。小金井市史編さん活動、市民協力員の調査項目をまとめたものとなります。

資料の説明の前に、簡単なこの協力員の説明ですが、平成22年度から畑野時夫さんに委嘱し、調査を継続してまいりました。調査内容は、明治時代から戦中戦後までの小金井市の詳細年表の作成、ほか小金井に関連する産業、または文化人など、その履歴調査を中心に行っていただいています。

資料1に戻りまして、まず1年間の調査報告。平成29年2月、こちらは1年前のこの会議の後報告されたものから、直近の1月報告分まで

の形となります。実は今年度、畑野さんは上半期ちょっと体調を崩された経緯もありまして、その分活動は行われておりません。ただ現在は復帰され、また引き続き毎月活動をいただいております。

一覧表データは全調査員の方にも基本的に配付しているもので、活用していただければと思います。また、報告書については小金井市文化財センターに設置しております。

1年間の報告を簡単に説明しますと、分類ごとに分けております。例えば戦時中の婦人会の活動の調査、報告。あとは、小金井市内の協和貯蓄銀行の役員であったり、またはしょうゆの醸造に取り組んでいた鴨下荘左衛門、俗に玉荘とも言います。

あとは日ノ出産業。こちらは例えばボタンなどをつくっていた会社となります。その下、日本精機工作所。こちらは機械器具の製作、または自動車部品の製作を担っていたところです。帝国ミシン。こちらは蛇の目ミシンと言ったほうが皆さんはよくおわかりだと思います。こちらもやはり戦時中にかかわる産業となります。

最後、大東電気。こちらは意外と知られていなくて、私もこの報告をいただいて知ったのですが、中島飛行機の部品供給をしていた、いわゆる軍事工場のような位置づけになるかと思っております。こちらは緑町に所在しておりました。現在はありません。

そういうところで、ほんとうに一般的に知られることなく、また埋もれていくような歴史を、畑野さんによって掘り起こされて、詳細な年表等が作成されております。

また、それより以下は、過去の調査項目を分類ごとに分けまして、並べ直しました。教育関係、軍事関係、または産業関係、あとは特に人物の分野はかなり多く割いております。これだけ見ても、小金井にかかわる人物というのがかなり多岐にわたることがおわかりになるかと思っております。

では、以上でございます。

根岸委員長

ありがとうございます。これについて何かいかがでしょうか。データのうち個人情報にかからないで、公開できるものはどのくらいありますか。あるいは統計とか。できれば市史編さん資料に今後まとめて載せていくなど、畑野さんにご協力いただけるうちに少しずつ始めてもいいかと思っております。

高木主事(学芸員)

そうですね。これほどの膨大なデータですので、ぜひ少しずつまた報告用に整理した形で公開できれば。今後検討してまいりたいと思っております。

根岸委員長

お願いできればと思います。

ほかに何かいかがでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

## 2 議 題

### (1) 今後の事業計画について

ア 『通史編』について

根岸委員長 次に、議題に移りますが、まず今後の事業計画について、事務局からご説明をお願いします。

高木主事(学芸員) はい。既に各部会、各委員からご報告がありました。事務局は今後の段取り、スケジュールを確認しながら、来年度刊行の通史編をご説明いたします。

まず直近としては通史編刊行に向けて、今年度末、3月までに、執筆原稿の提出をお願いしているところでございます。編集委員の皆様には、それぞれの部会の執筆者の進捗状況の把握等をお願いしたいと思います。

そして年度が変わりまして4月以降は、その提出された原稿を市史編さんの趣旨に基づきまして、内容の確認作業を鋭意進めてまいります。その上で、秋ごろの入稿を予定しているところです。

また通史編発行に向けては、編集方針、またその都度構成等の確認については、引き続き編集委員会議等の場で詰めていただきたいと思います。以上です。

根岸委員長 4月以降の原稿提出以降のことですが、編集委員が集まった原稿を全部確認して、それから図版なども考える必要があります。多分日高先生のところはたくさんあって、あまり問題ないと思いますが、ほかのところは少し確認しないといけないですね。原稿を調整するために、編集委員会を以前より多く開く必要があると思います。この調整が問題です。

高木主事(学芸員) 4月以降、例えば秋の10月ごろに入稿を考えると、半年間ありますので。

根岸委員長 結構忙しい。

高木主事(学芸員) ええ。おそらく月に1回は編集委員の方は集まって、精査していただくというのがありますので、調整はさせていただきます。

根岸委員長 そうですね。

ほかにお気づきの点、いかがでしょうか。いずれにしても原稿を集めるのが結構大変になると思います。順次事務局と話し合いながら進めていくということによろしいでしょうか。

高木主事(学芸員) はい。

根岸委員長 ありがとうございます。

イ 『資料編 考古・中世』について

根岸委員長 これは一番日高先生が大変になるのですが、その次の考古・中世について、まず事務局から説明をお願いします。

高木主事(学芸員) 『資料編 考古・中世』、こちらの全体の活動は、資料編のための掲載する図版類、写真類のまとめ、あとは解説原稿の作成というのがまず1つ、一番大変であり重要なところかと思います。こちらも通史編と同様に、来年度の事業の一環で行いますので、平成30年度中の刊行を目指すということには変わりはありません。

その上で、同時に通史編の刊行に向けた執筆も、並行作業という形に

なってしまいますけれども、お願いしたいと思います。まず資料編が先行して刊行できればというところではありますが、こちらもやはり調査員の方の進捗状況によって、若干変更があるかもしれませんが。なるべく先行して考えてはおります。

根岸委員長 事務局からはよろしいでしょうか。

高木主事(学芸員) はい。私のほうは以上です。

根岸委員長 それでは、日高先生のほうからお願いします。一番お忙しいとは思いますが。

日高委員 一応事務局のほうもスケジュールをつくっていただきまして、来年度、今年の5月の末ぐらいをめぐりに原稿を提出して、編集作業というような形でやっていく。それで一応10月の末には納品というスケジュールで何とかやっていきたいと思います。今年度はそういうやらなければいけない作業というのを、鋭意調査員がそれぞれで進めているところでもあります。

私のほうでも12月に、今まで図がつくられていなかったものの実測も行っています。それぞれの調査員のほうで年度末までにやれることを進めて、終わらせるという形で進めているところです。

根岸委員長 ありがとうございます。この資料編の考古・中世につきまして、体裁などは前回の会議でありましたが、何かお気づきになったところはございますか。よろしいでしょうか。

林委員 よろしいのですが、これは先生のところが大変ですね。

日高委員 でも原稿が上がってこない限り、どうしようもないと言えどもどうしようもないので、その催促担当ということですね。

林委員 間にはさまれ、事務局からも催促されるお立場ですね。

日高委員 何とか進めないといけないものですから。

林委員 ご苦労さまです。

根岸委員長 では、この件につきましてよろしいでしょうか。日高先生も申し訳ありませんが、よろしくお願いします。

ほかにその他何か、先生方のほうでございませうか。事務局のほうはいかがですか。よろしいですか。

### 3 次回の会議日程

根岸委員長 それでは次回の会議日程に移りますが、来年度の予定。

山崎文化財係長 日程案をお机に置かせていただきました。今年度は月曜日の午後、皆さんのご都合がよろしかったので、一応その想定で会議室の予約をとらせていただきました。まだ予備日もございますので、現時点で皆さんがご都合のよい日程をおっしゃっていただければと思います。

(日程について、調整)

根岸委員長 それでは、現時点では、来年度は、下記の日程でご予定を入れていただければと思います。会場は、こちらの801会議室です。

第1回 平成30年 5月14日(月)午後2時～

第2回 平成30年10月29日(月)午後2時～

第3回 平成31年 2月 4日(月) 午後2時～

そのほかは、よろしいでしょうか。本日は大分順調に進みまして、1時間ほどで終わりました。これで、第3回の編さん委員会を終了いたします。どうもありがとうございました。